

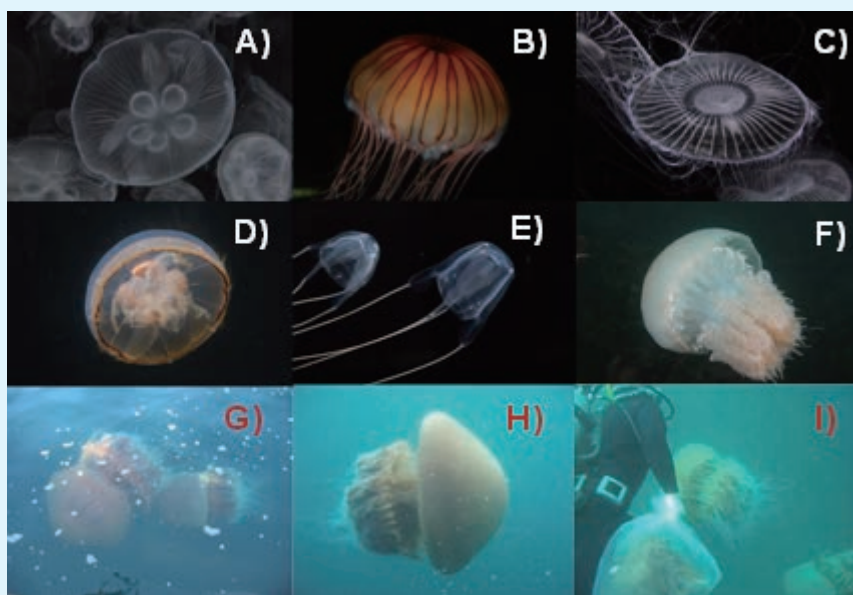
# Color Gallery

ヘッドライン

皆から嫌われるモノの化学 —こんな利活用もある—

## クラゲの有効活用の限界とムチンの化学 丑田公規

大量発生したクラゲの有効活用対策が繰り返し話題になっているが、実情はそれほど容易ではない。著者は新規な糖タンパク質（クニウムチン）をクラゲ体内に発見した経験をもつが、今のところそれがクラゲ処理の有効対策になるとは考えていない。今回は化学教育に携わっている方に正確な情報をていねいにお伝えするため本稿を執筆することにした。P228-231



日本沿岸で見られる  
様々なクラゲ

- A) ミズクラゲ  
(傘径 5-30 cm)
- B) アカクラゲ  
(同 5-30 cm)
- C) オワンクラゲ  
(同 5-10 cm)
- D) キタミズクラゲ  
(同 5-20 cm)
- E) アンドンクラゲ  
(同 2-5 cm)
- F) ビゼンクラゲ  
(同 0.3-1 m)
- G), H), I) エチゼンクラゲ  
(同 0.5-2 m)



J) 定置網漁業における  
クラゲ被害